五位組だより
２０２０年
（令和２年）
５月１０日

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区　五位組
題字・織田隆夫

# 組長就任挨拶

五位組組長　珉照寺　住職　山岸智史

五位組組長
山岸智史

去る三月十九日、珉照寺にて組長選挙が行われ、多くの賛同をいただいて、引き続き五位組組長に就任いたしました。これまでの四年間も務めさせていただきましたが、色々と模索しながらの四年間でした。今度は比較的落ち着いて務めていきたいと思います。

現在、私たちの社会には経済格差による貧困問題やヘイトスピーチによる差別扇動など、人権に関わる問題が数多くあります。また、寺院においても、寺離れや参拝者の減少に伴う将来への不安があります。五位組も例外ではありません。連続研修会の開催や各研修会や行事の充実など、多くの問題を抱えております。これからの四年間、今の社会や寺院の状況を踏まえながら、組として何ができるのか、皆さんと考えながら、運動を進めていきたいと思います。どうか、よろしくお願い致します。

ところで、この場を借りて皆様にお伝えしたいことがあります。現在、コロナウイルスの感染拡大が大きな社会問題となっております。富山県でも感染者が出たことは周知の通りです。しかし、その一方で感染者に対する非難や誹謗中傷が問題となっております。私が見たり聞いたりしたところ、一部ではありますが、感染者を加害者・犯罪者扱いするような雰囲気があります。おそらく、ウイルスに対する恐れや自分や家族友人の健康を守る気持ちがそうさせるのでしょう。

確かに、コロナウイルスは怖いです。また、自分や家族友人の健康を守りたい気持ちも分かります。しかし、そういった思いがエスカレートして感染者を誹謗中傷するのはいけません。感染者は感染したこと自体で辛く苦しい思いを致します。どのような経緯があったしても、そこに追い打ちをかけるようなことは人としてどうかと思います。

また、今のように感染者への非難や誹謗中傷が続くと、多くの人はそれを恐れて、多少体調が悪くなっても検査することを躊躇するようになります。また、感染経路も公表しなくなります。結果、正しい情報が入らなくなり、デマ等が流布し、そして感染が拡大します。感染者への非難や誹謗中傷は、感染拡大防止には何の役にも立ちません。むしろ、感染拡大を助長するものです。

私たちもいつ感染するか分かりません。このような時だからこそ、明日は我が身と弱者に優しくありたいものです。感染者への非難を口にするのではなく、彼らに対する忍耐と寛容が大切です。

# 樽谷先生と行く　勝興寺の足跡をバスで辿ろう！

永賢寺　　川岸　雅紀

令和元年十一月二十八日、午後一時頃、この日の天気予報は雨でしたが何とか空の方がこらえてくれて、旬菜食事処「かこみ」より、郷土歴史家の樽谷雅好先生と共に、計二十名を乗せたバスが出発しました。出発前に樽谷先生とバスの運転手さんが何やら真剣に打ち合わせをされていたのですが、出発して約十分後に明らかとなる。

どうやらバスは、瑞泉寺まで最短距離を通らず国道Ｉ５６号線を横目に、その昔瑞泉寺への表参道であった道を進み、樽谷先生の楽しいご解説をいただき、五百年程昔の千保川は現在の庄川位の川幅だった事や、参道沿いにお地蔵様跡がいくつも有った事、そして現在も昔の地形の名残りが有るなど、言われてみると納得な事が先生のお話で学ばせて頂きました。

樽谷先生の楽しいご解説により、バスはあっという間に瑞泉寺前を通過し午後一時五十分頃、田屋川原古戦場に到着。少し前に通過した瑞泉寺より約５㎞とかなり近く、一揆方と石黒氏の軍勢が山田川を挟んで睨み合っている様子が感じ取られるようでした。

さて、いよいよバスは県境を越えて二俣の松扉山本泉寺へ。午後二時二十分の到着で**山門前にて記念撮影！**

蓑輪の沼田塚

バッチリ決まったところで本堂へ。実はこの二俣本泉寺は、井波瑞泉寺・越前吉崎御坊と共に、加越の真宗門徒にとってとても重要な信仰の拠点となっている寺院で、地理的にみても砺波平野と金沢城の前身である尾山御坊を結ぶ最短路の中間地点にあります。一四八一年の田屋川原の合戦においては、山田川を挟んで睨み合う石黒軍の背後を衝く形で、二俣を発った一揆衆が突如現れ、石黒軍を驚かせ退散させたという言い伝えも納得のいく所であります。

本堂にて坊守様より、松扉山本泉寺一四四二年の開山より現在に到る歩みをご拝聴し、一四七五年に蓮如上人によって創作された九山八海の庭園を拝見し、お恥ずかしながら、お浄土を想う蓮如上人の御心にほんの少し触れることが出来たように思えました。その後、貴重なご宝物である母堂三種の形見・蓮如上人の御着衣・御袈裟・念珠等を拝見させて頂き、御着衣・御袈裟は当時のままの色で、なんとも味わいの深い自然の染料による色で、また当時の蓮如上人のお身体の大きさは、意外と小柄であった事をうかがい知る事ができました。時間の過ぎるのも早く名残惜しい思いでしたが、土山御坊へと出発しました。

山道を抜けて午後三時五分頃、南砺市福光町土山に到着しました。この土山御坊を創建されたのが勝如尼という女性。先程の本泉寺での坊守様のお話によると、本願寺七代宗主存如様の弟で、本泉寺の開基である如乗様の十六歳年下の奥方様が如乗様の死後得度して勝如尼とお名乗りされたそうで、一四七一年土山御坊の創建にご尽力され、本願寺九代宗主実如様より「北陸道仏法再興の人なり」と讃えられているお方でした。この土山御坊より勝興寺の第一歩が踏み出されました。初代住職は蓮如上人の四男蓮誓様で、言い伝えによれば、一四八一年の田屋川原の合戦の際この土山の人々が援軍として駆け付け、瑞泉寺を助けたと伝わっております。在所を見渡すように綺麗な蓮如上人の銅像が有り、土山の人々の蓮如上人への思いが感じ取れるようでした。

午後三時二十五分頃、高木場御坊跡が有る南砺市福光町高窪に到着。残念ながら寺院の名残りは少ないのですが、寺院跡とされる場所は土山御坊よりも広大で、一四九四年に土山御坊より移転した時には一向宗の勢力が拡大していたのではないかと言うことがうかがえました。又、一五一七年より勝興寺と改称され、勝興寺の寺号が誕生したのが高木場御坊からと考えると、現在の高岡市伏木まで沢山の歴史が詰まっているようで、改めてお念仏相続における先達のご苦労を思わずにはいられぬ思いでした。

午後三時四十五分頃、小矢部市末友の安養寺御坊に到着。寺院の名残りが有るとの事なのでバスより下車し、寺院跡の石碑前にて樽谷先生より安養寺御坊の歴史物語をご講義いただきました。一五一九年より高木場御坊が戦乱による焼失の為この地に移転。跡地よりの眺めは良好で小矢部川流域や砺波平野を見渡せ、当時の道路事情から交通の要衝であった事がうかがえ、前の高木場御坊が戦乱による焼失だった為、この末友での勝興寺はかなり城塞化が進み、寺地の区画がかなり広大で、明治時代の資料から約２００ｍ四方を空堀と土塁

土山御坊跡と古塁

安養御坊跡

で囲まれており、一揆勢力の拡大と戦国大名との緊張をうかがい知ることが出来ました。一五八一年四月、残念ながら当時の住職顕幸様が、かの有名な石山合戦への援軍に参戦中の留守を見計らい、木舟の石黒成綱により焼き討ちされてまたも消失。ちょうど田屋川原の合戦より百年後にあたり、石黒氏のリベンジだったのでしょうか？

午後四時十分頃、小矢部市箕輪の沼田塚に到着。先程の末友より程近くに有り、安養寺御坊移転の際に上野国（群馬県）沼田庄より越中国にやって来て、末友勝興寺を守った沼田太郎右衛門高信の碑を拝見し、この箕輪における沼田さんのルーツとなっていることを知り、寺院の守護の為、遠くからの移転にご苦労されたのではないかと思う所でありました。又、末裔には小矢部市の市会議員さんもおられたとか。ご先祖様の志は長い時間を経て現在に続いているのではと思えてなりませんでした。

午後四時三十分、小矢部市中央町の石動通坊跡に到着。勝興寺の伏木古府への移転から十数年後、砺波門徒の願いにて創建されました。伏木は距離的に非常に遠かったであろう事と、元々の安養寺御坊は砺波・石動の御門徒衆に支えられていた事を考えると、ごもっともな願いだと思いました。

以上が勝興寺と一向一揆を巡る旅行でございました。現在は華やかな勝興寺ですが、伏木に至るまでに、波瀾万丈の歴史が有った事を痛感致しました。最後は「かこみ」にて懇親会。最後まで一向一揆、蓮如上人談義で賑やかでした。またこのような歴史旅行を企画してほしいと願う次第です。

合掌

# 祠堂経法座ご案内

各寺院の祠堂経法座の日程をお知らせします。　**※日程は変更になる場合があります。**

**佐加野　光明寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の永代経法座は、
**中止**　とさせていただきます。

**本保　本正寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の永代経法座は、
**中止**　とさせていただきます。

**笹川　広済寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の永代経法座は、
**中止**　とさせていただきます。

**内島　教願寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の永代経法座は、
**未定**　とさせていただきます。

**四日市　浄明寺**
秋の報恩講の際にお勤めします。

**麻生谷　西光寺**
六月十二日　朝　九時三十分
六月十三日　朝　九時三十分
法話　氷見市布施　**圓山　望師**

詳細は各寺院にお問い合わせください

**上向田　浄永寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の永代経法座は、
**中止**　とさせていただきます。

**石堤　長光寺**
七月一日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
七月二日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市内島　**岡西　好持　師**　他

**赤丸　性宗寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の永代経法座は、
**未定**　とさせていただきます。

**辻　西福寺**
七月十二日　朝　十時　昼　一時三十分
法話　福岡町大野　**新原　忠男　師**

**三日市　光源寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の永代経法座は、
**未定**　とさせていただきます。

**立野　永念寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の永代経法座は、
**未定**　とさせていただきます。

**山岸　珉照寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の永代経法座は、
**未定**　とさせていただきます。

# 黎　明　講　座　ご　案　内

各寺院の黎明講座の日程をお知らせします。

**山岸　珉照寺**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の黎明講座は、未定　とさせていただきます。

**三日市　光源寺**
七月三十一日　朝　五時三十分

**笹川　広済寺**
七月三十一日　朝　五時三十分
八月一日　朝　五時三十分

**石堤　長光寺**
八月一日　朝　五時三十分
八月二日　朝　五時三十分

**内島　教願寺**
八月十三日　朝　六時
八月十四日　朝　六時
八月十五日　朝　六時

# 五位組　行事予定

**五位組　夏休み子ども大会**
**五位組　両講合同夏期講座**
コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、未定　と致します。
開催する際は、改めてご案内いたします。

**蓮門会**
テーマ「蓮如上人のことば」
講師　岡西　法英　師

※コロナウイルスの感染拡大防止の為、四月七日（総会）・五月三日（研修会）を中止とさせていただきました。

研修会日程（曜日）・時間・場所
六月七日（日）十六時　性宗寺
七月五日（日）十七時　光明寺
十月四日（日）十六時　広済寺
二〇二一年（令和三年）
二月七日（日）十五時　教願寺

※一回あたり千円での受講もできます。

## 編　集　後　記

令和二年も早五月になりました。

しかし世界のあちらこちらで災害も起きている中、今度はコロナウイルス発生により中国始め日本や世界中が恐怖に苦しんでおり、尊い命までも脅かされています。日本で開催される予定のオリンピックも来年に延期となり残念な状態です。

古い昔にも疫病がありましたが、必ず乗り越えてきた歴史があります。早く安全な生活が来ることを願います。

合掌

※今号は、コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、WEB会議にて編集を行いました。

行事予定については、今後の状況次第で変更もあるかと存じますが、何卒ご了承願います。

五位組だより　第20号　2020年（令和2年）5月10日発行
発行所　五位組組長事務所（土屋　珉照寺内）／　編集・制作　五位組門徒推進員協議会